



Disease Control & Prevention Center
National Center for Global Health and Medicine

<http://www.ncgm-dcc.jp>

海外にでかける学生・職員の 健康管理支援

【学生支援担当の皆様へ】

複数の学生が熱帯熱マラリアを発症した事例(2014年4月)

大学内の活動としてマラリア流行地に渡航したグループ内で、複数のマラリア症例が診断されています。帰国後に診断・治療が遅れたこと等から重症化した事例が含まれています。

本事例では防蚊スプレーなどは使用されていましたが、内服を含む予防対策について渡航前に情報を得られていませんでした。

熱帯熱マラリアは診断・治療が遅れると重症化や死亡のリスクが高い感染症です。

マラリアには内服薬の服用、長そで長ズボン・虫除けスプレー、防虫ネットなどの予防策がありますので、感染リスクのある地域にでかける際には事前の情報提供が有効です。

国のグローバル化戦略のもと、学生や教職員の海外派遣を行うところが増えていますが、このような事例の再発を防止するため、学生生活支援部門や保健管理センター等を通じ、注意喚起をお願いいたします。

- 出発前には渡航先で流行している感染症や安全情報を確認する
- 予防接種歴の確認、**予防内服**等の選択肢について医療機関で助言を得る
- 帰国後1ヶ月以内の体調不良時(特に高熱)は**速やかに専門医療機関を受診**をする
- 受診時には、渡航先や滞在目的、滞在日数、予防内服の有無を伝える

情報掲載サイト (“キーワード”で検索可能)

海外の感染症等の注意情報

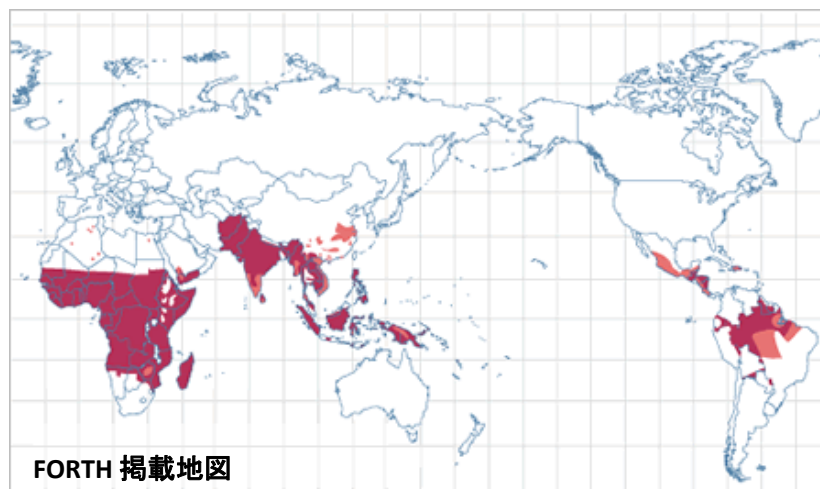
渡航前の基本的な注意事項/配布資料

検査・治療の相談が可能な医療機関

“厚生労働省検疫所 FORTH”

“国立国際医療研究センター トラベルクリニック”

“熱帯病治療薬研究班”



FORTH 掲載地図

- マラリアの感染が起こっている地域
- 限定的ではあるが、マラリアの感染が起こっている地域
- マラリアの発生がない地域

渡航後の体調不良や受診先の相談は国立国際医療研究センター国際感染症センター(DCC)へ。

オペレーターに「DCCの担当医師に」とお伝えください。専門の医師が対応します。(週末・夜間 オンコール含め24時間対応)

電話 03-3202-7181(代表)



Disease Control &
Prevention Center
National Center for Global Health and Medicine

<http://www.ncgm-dcc.jp>

海外にでかける学生・職員の 健康管理支援

【学生支援担当の皆様へ】

～蚊に刺されないようにするには？～

肌の露出を避けましょう

長袖、長ズボンを持参しましょう

寝る環境を整えましょう

宿泊施設に蚊帳が用意してあるか確認をしましょう。蚊取り線香なども役立ちます。

防虫スプレーはDEET(ディート)を含んだものを選ぶようにしましょう

日本で市販されている防虫スプレーはDEETの含まれている量が少ないため、マメにつける必要があります。

マラリア予防薬内服を検討しましょう

薬は複数の選択肢があります。服用するかどうかを含め、行先や滞在日数等をもとに医療機関で検討をします。正しく内服した場合、マラリアの発病を90%予防します。

【注意】 蚊でうつるのは、マラリアだけではなく
デング熱のようにマラリアとよく似た症状がでる感染症もあります。

Where can I get a
mosquito repellent?

防虫スプレーはどこで手に
いれることができますか？

May I have a mosquito
net?

蚊帳はありますか？

